

平成27年度 第1回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成27年6月26日(金) 午前10時00分 開会
午後0時00分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 中会議室
- 3 出席者
町長 佐野 和広 教育長 渡辺 拓雄 教育長職務代理者 芦澤 和彦
教育委員 四條 勉 教育委員 望月 恵美
欠席者 教育委員 入月 一巳
- 4 事務局等の出席者
町長部局 総務課長 四條 和彦
教育委員会事務局
学校教育課 課長 青木 司 生涯学習課長 梶原 猛 主幹 若林 将基
- 5 協議事項
(1) 総合教育会議の運営方法等について
(2) 大綱の策定について
(3) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開会 芦澤教育長職務代理者

(要旨) 町長と教育委員会は、日頃から意思の疎通を図り、教育課題等について意見交換をしているが、新制度の中で将来を見据えた大綱の策定をとおして、教育施策の方向性の共有がより確かなものになればと思う。

2 町長あいさつ

(要旨) 首長が、自分の思いを教育行政に反映させることが総合教育会議の趣旨だと思うが、私はこの会議で決定した事項を皆さんと一緒になって教育行政に活かしたいと考えているので、行政的な立場から意見を提示したいと思う。過疎化が進む中でこの町を活かすためには、教育文化を大きな柱と考えている。活発な意見の中で、総合教育会議を進めていただきたい。

3 教育長あいさつ

(要旨) 従来から、教育の論議は教育委員会の内と外であり、その壁は教育行政の独立という点から高く、議論の擦り合わせは難しい状況にあった。しかし、教育委員会制度の改正により、町長と教育委員会が同じ席に着き、総合教育会議を開催できることになった。教育とは子どもは勿論、青少年や成人を含め、個人が持つ資

質、能力を伸ばすことが使命となっている。故郷の資源を活用して、町民の成長を支えるため、町長部局と教育委員会が共通の認識を持つ場として会議が機能することを願っている。

4 議事

(1) 総合教育会議の運営方法等について

事務局（学校教育課長）が「資料1」、「資料2」及び「資料3」に基づき説明し、原案のとおり承認された。

(2) 大綱の策定について

教育長より、教育大綱について説明があった。

・ふるさと教育の体系化について

(委員) ふるさと教育は、かかわる人材をどうするのが必要になると思う。地域を巻き込んだり、学校で何をしているのかを発信しながら理解を得れば、取り掛かりができると思う。

(町長) 卒業式や成人式では、南部町で育ったことに誇りを持って、大きく羽ばたいてほしいと話している。故郷の歴史、文化を学び、それを基に自分の方向性を見出してもらいたい。どの道に進んでも、選択肢を増やすために学力だけは付けて欲しい。

(委員) 南部町の特色を明らかにすることで、故郷を意識させることができる。特色を明らかにする方向で検討する必要がある。

(委員) 子どもたちには、町の良さを感じながら羽ばたいてほしいと思う。学校、町、地域もとてもいい環境なので引き続き進めてほしい。

(委員) グローバル化とふるさと教育の両面から教育にあたればよいと思う。町を出て生活するときに、自分の生まれたところを誇りに思い、町の良さをしっかり語る人間を教育することが大事だと思う。

・特別支援教育の充実

(委員) 特別支援学級は各学校とも手厚く指導していると思う。また、外部とも連携が取れている。就学、進学時には、学校、保護者と行政が情報の共有を図ってほしい。特別支援学校への通学支援を継続してほしい。

(町長) 障害を持つ人たちに、手厚く支援をしていきたい。

(教育長) 特別支援教育は行政と教育委員会が連携して、効果的に進めていきたいと思う。

・防災教育の徹底

(委員) 防災に対して住民の意識が低いと感じている。防災教育はシンプルに、より具体的なものでなければならない。高齢化が進む中で、中学生は守られる存在ではないという意識改革も必要だ。

(町長) 防災訓練はひと通り終わったので、これからはシンプルに出来ることから行

い、次のステップにつなげたい。

(教育長) 中学生は地域の一員と考えて、訓防災練に参加させたり、避難所運営に関わるような防災教育をしたらどうか。それには、区長や交通防災課等と横の連携を図る必要がある。

(委員) 防災教育は学校ごとに独自で行っているが、地域と一体となっていない。子どもたちを巻き込んで地域と一体となった防災教育を進めていく必要がある。学校での引取り訓練は、本番を想定して予告なくやれば問題点が見えてくる。小小連携では、子どもたちが他の学校の様子を知ることにも必要だと思う。

(委員) 防災教育は最新の情報を入れながら、より具体的でシンプルな訓練が必要となる。小小連携は、出来ることから始めているが、交流を活発にしていきたいので行政サイドの支援をお願いしたい。

・教育環境の整備

(町長) 学校の適正配置は、簡単な問題ではないので時間をかけたい。例えば、4校を1校にすれば地域エゴも出ないかもしれないが、富河中のように残り3校の利活用が問題となってくる。教育委員会で意見を煮詰めたうえで、時間をかけて方向付けをしたい。具申を受けたら、各地で教育委員会と地域住民の話し合いを持たなければならない。

(教育長) 諮問をして現在検討していただいているが、経過説明をお願いします。

学校教育課長が、検討委員会の状況を説明した。

(委員) 現在、検討委員会で協議をしているので踏み込んだ話は避けたいが、4校が特色ある学校づくりや小小連携等で頑張っているところを分かってもらうために、広報活動に力を入れてほしい。

(町長) アンケートは保護者を対象としているので、子どもの意見が入っていない。すべての事を親が決めているが、子どもの目線に立った意見を加味したほうが良い。

(教育長) 学校適正規模について継続検討としたのは、総合計画に組み込まれているので同じ表現で盛り込んだ。別の視点からの声を拾う必要があることと、各学校がどんな取り組みをしているのか町民に知ってもらう機会をつくることも含めて、継続検討としたい。

・安心安全のための学校環境の整備

(教育長) 昨年、通学路安全対策推進協議会を立ち上げ、行政の横の繋がりが功を奏して、課題箇所9割以上対応がとられた。安心安全のための学校環境の整備には、教育委員会だけでなく、各種機関の協力体制必要だと感じた。

(町長) 現在、通学路に危険区域はあるのか。

(学校教育課主幹) 危険箇所に対する各種機関の対応と連携及び今年の通学路合同点検について説明した。

(町長) 危険箇所には対策を講ずるが、過度な対応はしない。行政を進めるうえでいろいろな要望があるが、抜本的な解決にならないものは必要ないと考えている。

(教育長) 道路管理者や警察などが一堂に会して、情報交換することは大事であり、有意義だと感じた。

(委員) 子どもたちは笛やブザーを持っているが、聞こえる範囲に家がないところが多い。南部町は青パトの登録台数が多いため、業務中に点灯して走るだけでも効果があるので、引き続きお願いしたい。

・学校を越えた教員間の交流促進

(教育長) 7月10日に小学校4年生の道徳の授業を4小学校合同で行います。目的は、小規模校は一人ひとりに目は届くが、多様な考えに触れることができないため、学校環境の違いを乗り越えて、子ども全体が同じ教育を受けることができるように取り組んでいます。先生方も、いい雰囲気の中で、いい授業づくりのための情報交換ができていると聞いています。これからは、教員の資質の向上、指導力の向上を考えると、学校を超えた教員の交流が大事だと考え、教育委員会でもそれを支援したいと思えます。最終的には、子どもたちの学力の向上に繋げるための方策だと捉えていただきたい。

(委員) 「なんぶ未来塾」は2年目を迎え参加者も増えてきました。子どもたちの学力を底上げするために、今後とも支援していただきたい。

(教育長) 教育支援センターも2年目に入り、昨年より一歩前進している。不登校の子どもが前向きになってきているなど、成果を上げている。さらに充実を図るために支援をお願いしたい。

(町長) 困っている子供たちを何とか支援したいと思う。

・生涯学習・生涯スポーツ

(委員) 特色あるスポーツを打ち出したらどうだろうか。体協、スポーツ推進員、事務局が体協企画会議で構想を練り、特色あるスポーツ振興計画を作ればよい。また、民間も含めた既存の施設の有効活用と、子どもから高齢者の体力の向上、強化を図る必要がある。

(教育長) 体育施設の専門的職員の配置と、事故など危機対応のために職員の増員をお願いしたい。

(町長) 行革で職員が減っているため増員は難しい。今、医療費が町の財政を圧迫しているため「南部健康会議」を立ち上げた。医療費を下げることにより、教育などの支援に回すことができる。チャレンジデーを採用して健康づくりを進めているが、今年度はさらに「南部健康会議」を充実させるために、課をまたいで検討している。特色あるスポーツは難しい面があるので、現在行っているスポーツを伸ばしてほしい。スポーツをやって健康寿命を延ばしてほしいのが私の願いだ。

(委員) 生涯スポーツ担当だけでは限度があるので、ボランティアを募集して、指導や管理に当たってもらったらどうか。

(町長) 防災面でも、消防団員が減っていて、募集しても増えない。ある地域ではOBに依頼して10人も増えた。60才を過ぎた人たちの活用を考えることも必要にな

る。

・文化財・博物館の活用

(町長) 私の念願だ。7月に八戸の市長が来町するが、何処を見せようかと頭を痛めているところだ。我々があちらへ行くと史跡などを案内してもらい、非常に勉強になる。本町は、発祥の地と言いながら何もないので、何としてでもやり遂げたい。長年関わってきた人達が健在なうちに資料を集め、数年のうちに形にしたい。大きなものはいらないが、蒙軒学舎、南部氏等我々の誇りを学ばしてあげたいと思う。ここは発祥の地であるが、発展したのはあちらなので、その関わりの中であちらの資料も展示出来たらいいと思う。

生涯教育課長が、資料の収集について今後の予定を説明した。

(町長) 学校の適正配置は、時間をかけて検討するが、これについてはスピード感が大事になる。

(教育長) 地域の歴史を学ぶ施設は、ふるさと教育の大きな要素になるので、その観点からも学校との関わりを考えていけると思う。

(委員) 併せて、歴史、文化施設の案内板をぜひ目立つように設置してもらいたいことと、かつて山梨歴史文化公園で案内板を設置したように、中部横断自動車道の開通に合わせて整備してもらいたい。マップの作製も検討願いたい。

(町長) これから進めていきたい。

(委員) 子どもたちは毎年、山梨青森南部交流会を行っているが、抽選に漏れる子どもいるので、子ども達も含めて青森南部方面への研修旅行を企画してもらいたい。

(町長) 交流は、経費が掛かるので続けるのか検討した経緯がある。

総務課長が構成市町村の検討内容について説明をした。

・地域の教育力

(教育長) 青少年の育成も教育委員会の大きな仕事なので、地域全体で子どもや青少年を支えることを意図し、大綱の中へ位置づけた。

この後、地域の教育力について基本方針、施策の方向、地域活動の充実について説明があった。

(委員) 保護者に対して、よく情報発信をしていると思う。また、開放日も設けているが、保護者以外の人からは、開かれている学校と言われているが、入っていけない雰囲気があると聞いたことがある。これからコミュニティ・スクールが広がれば、地域の人も学校にかかわることができるので、コミュニケーションが取れると思う。

(教育長) 南部中学校がコミュニティ・スクールの指定校となっており、平成27年度が準備期間で、実施するのは平成28年度からとなります。中学校を成功させて、やがて小学校全てに立ち上げが出来ればいいと思う。

(町長) 身近なものではどんなことをするのか。

(教育長) 学校を支援するボランティア組織を作り、学校行事への参画、学校経営、学校運営の手伝いをします。地域と学校の距離を縮めるため、学校は地域に開かれてい

なければならないのが原則です。それを具体的にしたものがコミュニティ・スクールです。

(町長) 地域の人も教育現場の事が分かっていいのではないか。地域の人を交えて運動会を行うなど、参加しやすいことから始めたらどうか。

(委員) 開かれた学校と情報発信はセットで考えたほうがよい。ホームページを立ち上げるとなかなか更新が出来ないので難しいところがある。回覧板を使うとか、地域への情報発信を充実させる工夫をしてほしい。

(町長) 万沢小は回覧板を使っている。興味を持って見ている。

(教育長) 配布物は総務課を通して組長に依頼していると思うが、苦情はあるのか。

(総務課長) 月に2回、組長にお願いしているが、配布物が多いと言われることがある。現在は、役場の職員が組長に届けている。

(町長) 組数はいくつあるのか。

(総務課長) 相当数ある。区長、組長には行政面の協力について委嘱しているため、学校を切り離してやっている。子どもを通して配布すると、子どもの数が少ないので負担がかかるため、町長の許可が出れば組長に依頼することもできる。

(町長) コミュニティ・スクールを成功させるためには地域住民に周知することが必要なので、組長に依頼するようにしたい。

(教育長) 地域と学校の壁を低くするためにコミュニティ・スクールがあるので、情報発信が必要となる。行政や地域の理解をいただきたい。

(委員) 学校だよりには行事予定も載っているのだから、地域でも見ているようだ。

(委員) 町のホームページの担当は。

(総務課長) 企画課で担当している。関係課から資料を基にやっている。

(委員) 各学校が情報を伝える手段として、町のホームページが使えるといいのだが。

(学校教育課長) 昨年度、各学校のホームページを開設した。27年度に入り更新していないので、早急に更新するよう伝えたい。

(教育長) コミュニティ・スクールを成功、充実させるために意見交換をしたが、最終的には地域全体で子育てをして、教育力を高める活動に繋がればよいと思う。あっという間に2時間が過ぎたが、最後に一言ずつ感想をお願いしたい。

(委員) とても有意義な会議だった。要望だが、ボランティアの育成と元気な高齢者を活用する仕組みを作ってほしい。本日はありがとうございました。

(委員) これからの町づくりは、高齢者をいかに活用するかにかかっていると思う。いろいろな場面で、出番を作ることは生きがいのある町づくりにつながる。今日は、有意義であった。ありがとうございました。

(委員) 学校を離れて、町の苦勞が分かるようになった。学校の理想と町の予算規模の中でうまくいかないこともあったが、物事をいろんな角度から見て、皆の意見がまとまり反映されればそれなりの取組みが出来ると思う。これからもよろしくお願いします。

(教育長) 第1回の会議に、どんな資料を用意し、どんな進め方をするのか考えてきたが、

忌憚のない発言をいただきありがとうございました。いただいた意見を整理して、次回提案するときは優先順位をつけて素案を示したい。貴重な意見をありがとうございました。

(町長) 忌憚のない意見をいただいた。皆さんが一生懸命考えてくれて、私の人選は間違っていなかったと感じた。先日、各省庁の新人が本町で1週間研修を行い、感想を寄せてくれた。その中に、地方自治体の現状を知り、今後の政策の中に活かして頑張りたいと書いてあったが、私たちもそれに負けず、総合教育会議を立派な会議にしたい。

(教育長) 議事を閉じたいと思います。長時間にわたりありがとうございました。